



3 学期スタート

今の自分を超えよう

保護者の皆様には、よい新年を迎えられたことと存じます。旧年中は本校の教育諸活動へのご理解とご協力、大変ありがとうございました。今年もよろしくお願い申し上げます。今年は年明け早々、能登半島地震という大きな災害に見舞われました。また、インフルエンザ等の感染症が相変わらず猛威を振っている中、そろって始業式を迎えることのできたことに感謝しております。

始業式で3学期は、新たな学校や学年に進むためにどうすればよいかを考え、今の自分たちを超えてほしいことを伝えました。一つ上の学年になることは、階段を上ることと同じように思います。足を上げ、しっかりと自分の体重を支えて上らなければなりません。上に向かってまずはやってみること。子ども達は自分なりの目標をもって、一歩ずつ踏み出してくれることでしょう。今まで蓄えてきた力を存分に発揮し、目標を見据え今の自分を超えてほしいと思っています。これまでの学校生活の中で、友達や、上級生の姿を見て学んできました。一つ上になるために、どんなことを身につければいいのかそれぞれの学年や自分で考え、3月を迎えてほしいと思っています。

少ない日数ではありますが、なりたい自分になれるよう、実り多い1年となるよう教育活動を進めてまいります。今後ともご支援とご協力をお願いいたします。



【始業式提示資料より】

児童会長の作文より抜粋

今日から3学期が始まります。児童会でたてた冬休みのきまりは、次の5点でした。…

皆さんは、冬休みのきまりを守ることができましたか。また、冬休みの思い出はたくさんできましたか。

3学期は、スキー教室があります。また、修了式や卒業式といった、1年間のまとめとなる儀式があります。皆さんは、3学期をどのような学期にしていきたいですか。僕は、あいさつが飛び交う学校にしていきたいです。児童会スローガン「あいさついっぱいいたいらっ子」を達成できるようにがんばりましょう。

野球 しょうぜ！



【キャッチボールの様子】

岩手が生んだ野球界のスパースター、大谷翔平選手から日本全国の学校に贈られたグローブ。ついにこの冬休み、本校にも届きました。そこで早速、始業式の後にお披露目会を行いました。紹介の後、実際にキャッチボールをしてのお披露目としました。その後は各学級で、実物を目で見て、手で触れる時間を作りました。今は残念ながらいただいたグローブを使い、外に出て、思い切り「野球しょうぜ！」という訳にはいきません。そこで、このグローブをどうするか児童会執行部に相談しました。子ども達に大谷選手はどう思っているか尋ねると、「大谷選手は、使ってほしいと思っています。」とのことでした。そこで、「では、どうしたらこのグローブを使えるか？」という相談をしてもらいました。

児童会執行部が考えたことは以下の通りです。

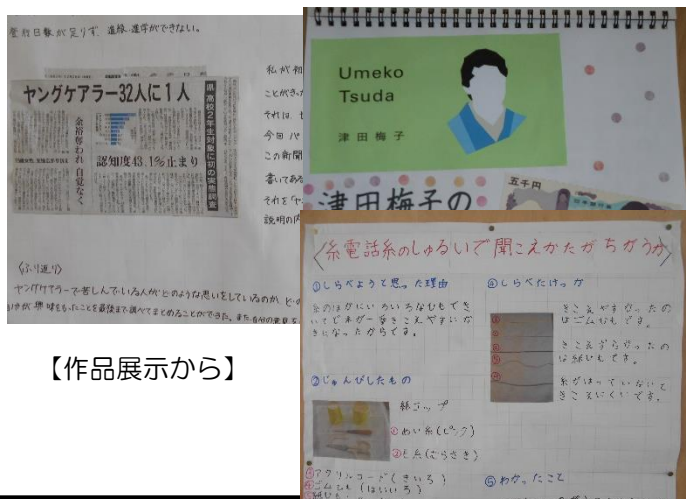
- ①体育館で柔らかいボールなら使える
 - ②置く場所を決めて使いたい人が借りていくようにする
 - ③ボールの大きさは何種類か欲しい
 - ④体育館の割り当ての学年が使える
- 当分の間この方法でやれるということなので、執行部から全校にお知らせをすることにしました。せっかくいただいたグローブを自分たちでも責任をもって、大切に使ってほしいと思います。



【大谷選手からのグローブ】

作品展開催

冬休みの作品展が開催されます。子ども達ひとりひとりが作品を手掛けました。保護者の皆様には、お子さんの思いを形にするべく支え導いてくださったことに感謝しております。作品は、工作や研究、調理など多岐に及んでいました。今後も保護者の皆様には、子ども達が悩んだときや困ったときに知恵を貸していただければ幸いです。



【作品展示から】

ある日の出来事から

- ◇ 始業式の朝。前日に積もった雪の上にさらに雪が積もりました。非常に寒い中、たくさん子ども達が雪かきをしてくれました。新学期スタートの日から自主的に「人のため」に働く子ども達。寒い朝ではありましたが、心温まる時間となりました。
- ◇ 始業式の前、1番に体育館に来たのは6年生。間もなく5年生が来ました。この高学年が静かに、自分の位置に並びました。そこに後から入ってきた学年は、上級生を見習い、静かに自分たちの位置に並びました。ジェットーヒーターの音だけが響く体育館。1年の締めくくりの学期に向けた上級生の思いを感じ、うれしい気持ちでいっぱいになりました。
- ◇ 登校時に校門前の国道の押しボタン信号を渡るときのことです。運転者の気持ちを考えて旧JA交差点の信号のタイミングを見てボタンを押したり、止まってくれた運転者に会釈をしたりする子どもが増えたと感じています。西側校門前の横断歩道でも止まってくれた運転者に会釈をする6年生の姿を見かけました。人を思いやる子ども達が増えていること大変うれしく思っています。